

この提言は、そうしたまちづくりのための当面の一步を示したものだと考えています。この提言書の内容は早期に実現されるものと信じていますが、もちろんこの範囲で十分だ、などというのではなく、近い将来、さらに市民参加と協働のまちづくりが充実し発展していく、いわば「次のステップ」を検討し展望していただきたいと考えています。

この提言書は、委員会の各委員が熱心に議論をし、検討を進めた結果です。至らないところがあるとすれば、それは委員長の責任と承知してはいますが、これからの南丹市にとって必要な市民参加と協働によるまちづくりについては、その方向と当面の手法を明らかにできたのではないかと自負しています。

これまで意欲的に検討をいただいた委員各位、特に最終段階で重責を担っていただいた中田副委員長、取りまとめにあたってご尽力をいただいた事務局スタッフ、そのほか関係の皆さまにあらためて感謝を申し上げます。

この提言を機会に、これからの南丹市が、さらに素晴らしいまちづくりを進めていかれることを期待します。



## 「みんなのまち」を みんなの力で

南丹市長 佐々木 稔納

このたびは、これからの南丹市の大きな柱となる「市民参加と協働」によるまちづくりの手法をご検討いただき、「提言書」により、その内容についてご報告賜りましたことを心から感謝申し上げます。

新川委員長をはじめ、「市民と共に担うまちづくり手法検討委員会」委員の皆さんには、公私ご多忙の中、幾度となく話し合いの場を持っていただき、「南丹市のええとこ、あかんとこ」、現状の把握や市民ニーズなどについてさまざまな立場から熱心にご研究、ご検討いただきました。

南丹市が誕生して、丸4年が経

ちました。私たち行政の責務として、南丹市総合振興計画や南丹市行政改革大綱を基に、市民の皆さんが「住んで良かった」と実感できるまちづくりを推進しているところですが、しかしながら、市民の皆さんの行政に対するニーズは多様化しており、行政だけで取り組むことは誠に困難な状況にあります。そこで、市民・地域・行政など、それぞれが役割を自覚し、分担または補い合いながら課題の解決に取り組んでいく必要があります。

今回導かれた南丹市におけるまちづくりの手法をふまえて、一定のルールとなる条例を定め、今後は市民の皆さんと行政とが相互の信頼関係のもとに、お互いの役割を明確にし、知恵と力を出し合いながら一緒に暮らしやすいまちづくりを進めていくべきであると考えております。

この「市民と共に担うまちづくり」は、行政の思いや考えだけでなく、実現できるものではありません。地域課題の解決や行政運営に市民の皆さんにご理解いただき、参画しようと思っただけの気運の醸成が必要です。まずは市政に関心を持っていただき、市民の皆さんからも働きかけていただけるよ

うに、市民目線に立った施策の展開、分かりやすい説明など、行政責任を十分に果たし、市政全般についての情報を皆さんと共有できる仕組みづくりに取り組んでまいります。

市民の皆さんの中には、NPO法人（特定非営利活動法人）や市民団体として、地域における課題解決のために、さまざまな分野でニーズに合わせた活動を展開されている方々が多数おられます。こういった方々の輝かしい取り組みについて、継続的、発展的に活動されるよう、行政として連携を取りながら、でき得るサポートをしてまいりたいと存じます。

何よりもかけがえのない「ひと」、そして先人から受け継いだ「もの」を南丹市の宝として一層磨いていくため、共に手を取り、きずなを深めながら、みんなの力で「みんなのまち」を築いてまいります。